

第9回漱石記念漢詩大会

この応募要項は、漱石記念漢詩大会のホームページ

<http://ss725786.stars.ne.jp> からダウンロードすることができます。

趣旨

熊本の地肥後には、天下にその名を轟かした藩校時習館があり、沢山の漢詩文の学者を生み出してきました。幕末には頼山陽もやってきて、阿蘇や天草などの漢詩を残しました。地元出身では、政治思想家として、江戸幕府最後の将軍徳川慶喜の政治顧問の一助を務めた横井小楠も多くの漢詩を残しています。明治になってからも、竹添井井、徳富蘇峰、狩野君山、宇野哲人など、多士済々です。

また、夏目漱石は第五高等学校の英語の教師として約4年間熊本で過ごしました。漱石は幼いころから漢籍に親しみ、漢文漢詩に関しては大変造詣が深かったということがよく知られています。15才のときに三島中洲によって創設された漢学塾である二松学舎に入り、三島中洲から直接漢詩の指導を受けています。今日遺されている漢詩は207首に上ります。

ときあたかも平成28年は、漱石が熊本に赴任してきてから120年になり、また没後100年にもなりますので、漱石を記念して漢詩大会をスタートさせることになりましたので、奮ってご応募くださいますようご案内申し上げます。どなたでも応募できます。

漢詩大会 令和6年12月7日(土) 13:00-17:30

場所 熊本市国際交流会館(熊本市中央区花畑町4-18)

懇親会 場所未定、会費7000円

見学会(12月8日)熊本城・水前寺公園・熊本大学など、会費6000円(入場料・昼食込み)

応募受付期間

令和6年4月1日～6月30日まで 当日消印有効

応募規定

1. 作品

(1) 形式は七言絶句のみとします。未発表作品で、他者の知的財産を侵害しない作品とします。

(2) 一人2首までとする。 (3) 題は自由です(漱石に関係なくても可)。

2. 審査基準

別紙の漢詩審査基準に基づき審査します。

3. 応募料 1首につき1,000円とする(高校生以下は無料)。応募料の送金は下記の郵便振替口座に送金してください。なお、送金された応募料は理由の如何にかかわらず返却できませんので、ご了承ください。

郵便振替口座記号番号 01770-6-129100 (加入者名 漱石記念漢詩大会実行委員会)

応募方法

所定の「漢詩応募票・大会参加申し込み票」および「漢詩応募用紙」に必要事項を記入し、「郵便振替払込受領証」またはその写しを添付して郵便にて応募してください。

また、電子メールによる応募も可能です。メールアドレス kashiwa@gpo.kumamoto-u.ac.jp までお送りください。

注意事項

1. 応募規定に違反する場合は、入賞・入選を取り消します。
2. 入賞・入選作品の著作権は応募者に帰属するものとしますが、主催者は作品集などに応募作品を使用できるものとします。
3. 応募作品は返却しませんので、必要な方はコピーをとって保存してください。

応募作品送付先

〒860-0862 熊本市中央区黒髪4-7-11 漱石記念漢詩大会実行委員会（柏木 潤方）

審査

次の選者により審査を行い、入賞作品を決定します。審査結果については、入賞者には9月末日までに連絡します。なお、審査についての問い合わせおよび異議は受理しません。

選者 国士舘大学名誉教授・全日本漢詩連盟会長 鷺野正明先生

表彰・賞

最優秀賞（1名）、優秀賞（5名）、佳作（10名）
入選（20名）、若年奨励賞（若干名）、高寿奨励賞（若干名）

漢詩集 入賞作品のほか、応募作品は実行委員会が審査の上、合格した作品を漢詩集として刊行し、応募者全員に無料配布します。

主催・後援

【主催】 漱石記念漢詩大会実行委員会

【後援】 熊本県、熊本市、熊本大学、熊本県漢詩連盟、熊本市新聞社、熊本文化協会、熊本県吟詠連盟、公益財団法人熊本県吟剣詩舞道総連盟、くまもと漱石倶楽部、NPO法人漱石文化振興会

【協賛】 原泉吟社、龍南吟社、石泉詩会、嘯風吟社、吟詠フォーラム、熊本、舒文堂

問い合わせ先

860-0862 熊本市中央区黒髪4-7-11 柏木 潤（漱石記念漢詩大会実行委員長）

メール kashiwa@gpo.kumamoto-u.ac.jp 携帯 090-8398-5936

問い合わせはできるだけメールでお願いします。

郵便振替払込受領証、
又は、その写しをここに
貼ってください

「応募料」は一首千円です（一人二首まで）
（高校生以下の応募料は無料です）
「交流懇親会参加料」は一人七〇〇〇円です
「見学会参加料」は一人六〇〇〇円です

◎応募期間は四月一日～六月三十日(当日消印有効)です

【「漢詩大会」について】

(漢詩応募の有無にかかわらず
どなたでも参加できます)

参加・不参加

(該当に○印をつけて下さい)

【「交流懇親会」について】

(漢詩応募の有無にかかわらず
どなたでも参加できます)

参加料：一人 7,000円

参加・不参加

(該当に○印をつけて下さい)

【「見学会」について】

(漢詩応募の有無にかかわらず
どなたでも参加できます)

令和6年12月8日(日)
8時30分～15時
詳細は別紙を参照

参加料：一人 6,000円

参加・不参加

(該当に○印をつけて下さい)

※ 応募者 No.

(上欄には何も記入しないでください)

第九回漱石記念漢詩大会

漢詩応募票・大会参加申込票

注、上記※印の欄内を除き楷書ですべて記入して下さい

学校名	年齢	住所	氏名
(高校生以下の方は学校名 を記入してください)	歳	〒 	ふりがな
	性別		姓・名
学校 (学年 年)	女 男 (該当に○印)	府 都 県 道	雅号
	職業	電話番号	
			()

【漢詩審査基準】

応募作品の審査にあたっては、下記の基本的な基準を満たすとともに、公正で詩心を十分に訴えた作品を選考するものとする。

項 目	一、形 式	二、押 韻	三、韻 字	四、平 仄（一）	平 仄（二）	平 仄（三）	五、そ の 他
応募作品に求められる要件ならびに許容される範囲	<p>七言絶句のみとします</p> <p>① 一、二、四句末に踏みます（正格）</p> <p>② 「踏み落とす」（一句末に踏まない）も可とします</p>	<p>① 百六韻（平水韻）のうち平声・三十韻とします</p> <p>② 「仄韻」も可とします</p>	<p>① 平仄排列上の規則 二・四字目「不同」、二・六字目「対」</p> <p>② 平仄排列 禁忌 二「下三連」不可</p> <p>③ 平仄排列 禁忌 二四字目「孤平」不可</p>	<p>① 「一・二句を反法、二・三句を粘法、三・四句を反法とする」ことを原則とします</p> <p>② 「一・二句、二・三句、三・四句、すべてを反法とすること（拗体）も可とします</p> <p>③ 「反法」 隣り合う二句の対応する二・四・六文字目の平仄を違えること</p> <p>「粘法」 隣り合う二句の対応する二・四・六文字目の平仄を同じくすること</p>	<p>扶平格（挟み平） 二・三句の下三字の平仄を○●●とする場合、●○●（挟み平）とすることも可とします。</p> <p>（○ 平字、● 仄字）</p>	<p>① 禁忌 二「同字重出」は許されません。ただし、意図的、効果的な場合のみ可とします</p> <p>② 容認 二「冒韻」は可とします</p> <p>③ 「通韻」の原則（近体詩・絶句では左記規則・条件下でのみ通韻を可とします）</p> <p>一、二、四句末に踏む韻を二種類の韻（仮にA韻、B韻）とし、</p> <p>一句末の押韻を「A韻」とし、二、四句末の押韻を「B韻」とします。つまり、一句末「A韻」、二句末「B韻」、三句末「●」、四句末「B韻」と押韻します</p> <p>この場合、「A韻、B韻」の二つの韻は、左記の組み合わせに限るものとします</p> <p>「許容される通韻の組み合わせ」 二「東・冬」、「支・微」、「魚・虞」、「寒・刪」、</p> <p>「蕭・肴・豪」、「歌・麻」、「庚・青・蒸」</p>	